



図 36 スズダケープナ林 (太平洋側気候区)  
岩瀬郡天栄村湯本 (1959.5.2)



図 37 チシマザサーブナ林 (日本海側気候区)  
福島市野地温泉付近 (1984.10.30)

して前者は太平洋型気候区域、後者は日本海型気候区域とされている。自然林のブナ林はしだいに減少し、二次林や植林に置きかえられ、阿武隈山系でも典型的のスズダケープナ林は少なくなった。しかし会津地方では南に日光国立公園、北に磐梯朝日国立公園があることもあって、チシマザサーブナ林は諸所に見られる (図 36, 37)。

以上のように福島県ではミヤコザサ線、スズダケ線、チシマザサ線が県のおおむね中央部を3線がたがいにやや接近し、ほぼ平行して通過している。ミヤコザサ線はチマキザサ帯とミヤコザサ帯の境界線として、またチマキザサ節からミヤコザサ節への生活形の分化を起こさせる発端として大きな意義がある。スズダケ線とチシマザサ線は日本のブナ林を2つの群団に区分し、太平洋型気候区と日本海型気候区が一見して識別できることでこれまた重大な意義がある。それらのことは当然福島県の植物区系と密接な関係をもつものと考えられる。

## II. 福島県の植物区系

前川文夫(1977)は日本の植物区系を9つの区系地域に分け、そのなかで福島県と関東地方(伊豆諸島、小笠原諸島を除く)を関東地域とされた。一方、日本海地域というのがあり、それは北海道渡島半島から本州の日本海側の全域が入り、そのなかに飯豊一越後山地が含まれている。この山地の東限ははっきり示されていないが、もっと東へ伸ばして北は吾妻山、南は旭岳、那須山(北斜面)までとし、そうすると日本海型気候区のチシマザサーブナ群団の全域となり、その方が自然であろう。つまり福島県は中通りを含めてそれより東方が関東地域、会津地方が日本海地域となる。